

第1回和泉市都市再生整備計画事業評価委員会のまとめ

項目	指摘事項	修正
事後評価シート様式2-1について		
指標1(図書館の貸出人数)	●来館者数で見た方がよいのではないのか	フォローアップ時に来館者数を追加して評価する旨総合所見に記載 様式2-1(2)「効果発現要因(総合所見)」参照
	●目標値の設定に無理がある(もう少し積極的な評価ができるのではないのか)	今後、目標値の数値設定する際には現実に即した数値を出すようにし、また評価項目を設定する際には事前に慎重な検討、議論が必要
	●文化的なレベルを数値化して評価していいものか	
指標2(JR和泉府中駅の乗降客数)	●JRのダイヤの変更は考慮しなくていいのか	乗降客数が増えた要因は、人口増加に加え、JRのダイヤの変更も関係している のでその旨総合所見に記載。フチャール和泉が出来たから増えた旨の記載は 削除 様式2-1(2)「効果発現要因(総合所見)」参照
	●総合所見の文章の変更が必要	
	●乗降客数以外に指標は何か考えられないのか	「人の賑わい」を示す指標として、まちづくり協議会が実施を予定 している「商店街の通行量調査」を活用できるかどうか現在検討中
指標3(和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割合)	●総合所見の文章の変更が必要	アンケートの質問内容は「和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じますか」と聞 いているが、指標の名称が「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割 合」になっており、名称が変更できないので、総合所見の冒頭にその旨記載 様式2-1(2)「効果発現要因(総合所見)」参照
指標4(不燃領域率)	●フォローアップを行い、継続して数値を計測しなくてはいけないのでは	引き続きフォローアップを行うことや、大阪府が平成37年に50%の目標を掲げ ていることについて総合所見に記載 様式2-1(2)「効果発現要因(総合所見)」参照 また原案の数値は平成23年1月1日の資産税課税台帳を用いて数値を出して いたが最新の平成24年1月1日時点の数値へ変更する
	●平成37年に50%という目標について触れていない	
「目標達成度」・「1年以内の達成見込み」について	●「1年以内の達成見込み」に「なし」と記入していると誤解を生じないか、目標の達成時期を入れる方がよいのでは	「目標達成度」を「目標達成度(平成24年度時点)」に変更 「1年以内の達成度」を「目標達成度の見込み・時期」に変更 様式2-1(2) 項目名 参照
数値(モニタリング)について		モニタリングを実施していないのでモニタリングの項目を削除。代わりに 評価年度を記載 様式2-1(2) 項目名 参照
定性的な効果発現状況	●現状の事業の進捗具合を含めて記入するべきではないか	事業の途中なので歩行者の快適性や、回遊性が十分ではない旨を事業の進 捗具合を含めて記載 様式2-1(4)定性的な効果発現状況参照
実施過程の評価について	●「モニタリング」「住民参加プロセス」の「今後の対応方針」に記入が必要ではないか	今後の対応方針として、評価項目に掲げた数値について、引き続き 数値を計測する旨記載。またまちづくり協議会も住民参加プロセスに該当 するとして記載 様式2-1(5)実施過程の評価 参照
	●「住民参加」についての考え方(まちづくり協議会も該当するのでは)	
	●「住民参加プロセス」「持続的なまちづくり体制の構築」の間の線をとる	
事後評価シート様式2-2について		
「まちの課題の変化」「今後のまちづくりの方策」	●「まちの課題の変化」について項目立ての仕方等検討が必要、「まちの課題の変化」「今後のまちづくりの方策」は縦に並べるより横に並べる方が見やすいのではないのか	防災面、駅周辺の混雑、活力あるまちづくり、放置自転車の4つの課題を 項目にあげ、改善状況や今後の方策を記載 様式2-2【まちの課題の変化】【今後のまちづくり方策(改善策含む)】参照
	●自転車の問題について検討が必要	自転車等を放置させない為の方策を官民協働で協議し、可能な対策を 講じる旨記載 様式2-2【今後のまちづくり方策(改善策含む)】参照